学校番号	123

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新編古典Ｂ　（東京書籍）						
副教材等	古典文法助動詞徹底ワーク（尚文出版）、古典文法用言徹底ワーク（尚文出版） イメージで覚える改訂版完成古文単語３２１（尚文出版）						

1　担当者からのメッセージ

・昨年度の内容に引き続き、入試古典に対応できるよう、文法力を磨いていきます。
・昔の日本の文化や風習、思想を知ることで今後の日常生活に深みを持たせましょう。
・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けてください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

古典作品を読むことを通じて、昔の人々の考え方を知る。現代の日常生活とのつながりや違いについて知ることで、現代生活にも目を向けられるようになることを到達目標とする。古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育む。
また、前述の古典文化を知るにあたって必要となる文法事項に関しては、既習の用言の活用を踏まえて、助動詞を中心に扱うことで卒業時にセンター試験での高得点獲得を視野に入れる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度			b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。			文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）			記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a			b	c		
1学期	随筆を味わう	・枕草子 ありがたきもの ・方丈記 安元の大火	○			◎	○	a：随筆を読み、古文の読み方の基礎を学ぼうとしている。 b:古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について理解することができる。 c：古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化について理解を深めている。	a:観察(発言・発表) b:ノート、ワークシート c:小テスト及び定期考査
	物語を楽しむ	・伊勢物語 初冠 東下り ・大和物語 姨捨	○			◎	○	a: 中世の物語を読み、古人の思索と無常観を理解しようとしている。 b: 物語を読み、無常観についての考えや、現代文化との比較について理解することができる。 c: 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び分析 c:定期考査
2学期	歌話を読む	・古今著聞集 能因と節信 ・無名抄 出で映えすべき歌のこと	○			◎	○	a: 登場人物の感情やその変化について正確に読み取ろうとしている。 b: 文章の内容を物語の展開に即して的確に理解することができる。 c: 和歌と散文の相乗効果による物語文学の様式を理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び定期考査 c:小テスト
	物語を味わう	・源氏物語 光源氏の誕生 若紫	○			◎	○	a: 物語を読み、作者の置かれた状況や心情を読み取ろうとしている。 b: 文章の内容を物語の展開に即して的確に理解することができる。 c: 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解している。	a:行動の観察 b:行動の観察 c:小テスト及び定期考査

3学期	歴史物語を読む	・大鏡 三船の才 道長、伊周の競射	○			◎	○	a: 歴史物語を読み、人物の思想や感情を的確にとらえようとしている。 b: 登場人物の感情を的確に読み取る。感情を的確に読み取ることができる。 c: 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解している。	a:行動の観察 d:記述の確認及び定期考査 c:小テスト及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力　　c:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。